

2025年4月10日

京都府知事 西脇 隆俊 殿  
京都府教育長 前川 明範 殿

日本共産党京都府会議員団  
団 長 島田 敬子

## 「子どもの大阪・関西万博体験支援事業」の中止を求める緊急申し入れ

私たちがこれまでに指摘してきた大阪・関西万博会場の危険性が、開催直前の「テストラン」において現実のものとして顕在化している。4月6日、万博会場内の東トイレすぐ外に位置するマンホールから、爆発しうる濃度である100%LEL、すなわち5vol%を超えるメタンガスが検知された。この高濃度のメタンガスは、現場を訪れていた日本共産党の寺本健太守口市議員が自ら持参したガス検知器により検知され、119番通報によって明らかとなり万博協会も公式に認めている。

寺本議員によれば、当初、万博スタッフにこの事実を伝えたにもかかわらず、立ち入りの規制や避難誘導などは行われなかった。そのため、やむなく119番通報を行ったところ、大阪市消防局は本来であれば緊急出動すべき事案であるにもかかわらず、サイレンを鳴らさない業務出動を実施した。こうした対応から、万博協会や大阪市が事実の矮小化を図ろうとしたのではないかという疑念がある。

高濃度のメタンガスが検知されたという重大な事実に加え、大阪市および万博協会のこのような対応も含め、万博会場の安全性に対する重大な不安を抱かざるを得ない状況である。メタンガスに関しては、昨年3月28日に夢洲1区で大規模な爆発事故が発生して以降、万博協会は30億円以上をかけて対策を講じてきたにも関わらず、今回の事態が起こり、その後の対策も点検の回数や地点を増やすというだけであり、これでは到底参加者の安全を保障する事はできない。

また、「テストラン」では、他にも様々な問題が起こった。4月4日にブラジルパビリオンでは火災が発生した。入場ゲートでの混雑では1時間半から2時間待たされる事態が発生し、木造リングの上には屋根もベンチも設置されておらず、夏場における熱中症の危険性も改めて指摘されている。子どもたちが昼食をとる場所となる団体休憩所は、屋根があるだけで壁は無く、これで暑さや強い雨をしのげるのかという心配がある。

京都府は「京都府子どもの大阪・関西万博体験支援事業」において、学校行事としての万博参加を呼びかけているが、安全確保の責任は参加する各学校にあるとしている。危険性は明らかであるにもかかわらず、下見すらままならない状況で学校現場や保護者から不安の声が出ており、学校現場や子どもたちに責任とリスクを押し付け、このまま万博体験支援事業を強行することは許されない。

開催が目前に迫った「大阪・関西万博」であるが、何よりも大切なのは命である。私たちは、あくまで夢洲での開催中止を強く求めているが、少なくとも開催直前に至っても安全性に関する疑念が払拭できない大阪・関西万博に子どもたちを参加させる「京都府子どもの大阪・関西万博体験支援事業」は、直ちに中止するよう京都府に強く求めるものである。

以上